

自由論題2、報告3

報告テーマ

「毛主席は祖国の大地を巡遊する」:現代中国における中央指導者の視察調査と情報収集 (1949-1954) “Chairman Mao travelled all over the country: Land Space, power and Information”

氏名(所属)

周 俊(早稲田大学アジア太平洋研究科博士後期課程)  
Jun Zhou (Waseda University)

要旨(800字程度)

中国は広大な地理空間を持ち、経済状況、民族構成、言語、社会風習などでも多様性を有する人口大国である。政策現場の状況を把握するため、中国共産党政権の指導者は各地に赴き、いわゆる「調査研究」を行う慣習が革命期から受け継がれてきている。しかし、この「調査研究」はなぜ、いつ、どのように行われたのだろうか。

これまでの先行研究では概説的なものが多く、実証的分析は皆無と言っても過言ではない。本稿は、共産党政権の中央指導者による視察調査の起源、パターン、機能を検討した上、視察調査と情報収集との関係性を明らかにする。

本稿では、建国初期における共産党政権の最高指導機関である「中央人民政府委員会」、「政務院」、「人民革命軍事委員会」、「最高人民法院」、「最高人民検察署」の成員を中央指導者として定義する。その中から、年譜が出版され、首都の北京を勤務地とする人物 35 名を抽出し、GIS の分析に依拠してその行動パターンを地図上に可視化し、またその規定要因を検討する。さらに、『年譜』、『日記』、『文集』及び関係者の回想録などの文献に基づき、視察の実態や情報収集との関係性を考察する。

暫定的な結論は下記の通りである。すなわち、①職位によって個人差が存在するにせよ、建国初期において共産党員の指導者であれ、非共産党員の指導者であれ、首都の北京から離れ各地に赴き、視察調査を積極的に行う傾向があり、またその調査結果は政策決定に直接に反映される場合がある。②しかし、視察先は全体として東北地域及び上海を中心とする華東地域の都市部に集中し、指導者の行動パターンは既存の鉄道網に強く規定されている。③さらに、視察手法によって指導者をポピュリズム型、官僚型、専門家型、宣伝型、野鶴型という5つのタイプに類型化することができるが、地方党委員会の案内を通して視察を行う点は共通している。④従って、調査先の地域偏在と地方党委員会からの情報遮断が観測され、指導者にとって視察調査は政策現場の情報を入手する重要なルートであるが、様々な限界も存在する。